

誰もが楽しめる映画館

日本初の

ユニバーサルシアター

「シネマ・チュプキ・タバタ」は、視覚障がい者も聴覚障がい者も、誰もが楽しめる「ユニバーサルシアター」(東京・北区)。「好きな映画をどんな人にも見てほしい」と劇場を開いた平塚千穂子さんに話を聞きました。

森の中をイメージした映画館



「シネマ・チュプキ・タバタ」代表 平塚千穂子さん

JR田端駅から徒歩7分。商店街にある雑貨店のようなドアを開けると、明るい黄色の壁に枝を伸ばした木のイラストが目飛び込んできます。その先の部屋がシアター、20席しかない小さな映画館です。「目の不自由な人でも楽しめるよう音響にはこだわりました。森の中で360度、音に包まれるようなイメージです」と平塚さん。それぞれの席にイヤホンをつける装置があり、そこから映画の音声ガイドが聞けるようになっています。イヤホンを借りて体験してみると、映画の冒頭はにぎやかなパーの中、グラスの鳴る音とともに、役者の表情や舞台を説明するナレーションが聞こえてきました。

日本も自分たちで

今、日本で視覚障がい



この装置にイヤホンをつけると音声ガイドが聞こえる



チュプキはアイヌ語で「自然の光」。Cの頭文字を暗闇を照らす月に見立てた

「見たくてもあきらめていたんだ」

映画館で働いていた平塚さんが視覚障がい者のサポートをはじめたのは2001年からです。きっかけは、「誰も思いつかないことをやろう」と、サイレント映画を目的の見えない人に見せるという企画でした。「最初は、映画なんて、見て楽しむものを持ち出すことはタブーなんじゃないかと思っていました」当事者に話を聞こうと晴眼者と視覚障がい者がともに朗読するグループと出会い、見方を180度変えたといいます。「視覚障がい者の方たちは目が見えない分、物語の世界を音や声ですごく楽しんでた。その人たちが、『映画も本当は見たいけど諦めてたんだ』

「映画が好き」で越えられる

月ごとにテーマを決めて、新作や旧作お任せ目当てで来てくれたお客さんがチュプキの趣旨を知り、リピーターやサポート者になってくれることもあるそうです。今後の目標は、つくってきた音声ガイドや字幕をいろんなところで活用してもらうこと。「私は映画が好き。映画を見る喜びを、障害を持っている人にも持っていない人にも知ってほしい。その思いをたくさんの人と共有したいんです」

来場希望の場合は事前予約を <https://chupki.jp> から予約サイトへ TEL 03-6240-8480 (水曜休) 視覚障がい者の方に田端駅から劇場まで誘導も有り (事前電話要)

壁には鳥の巣や枝の飾り、床には人工芝がすべて吸音の役目を果たす

予約したお客さんと受付は「いっぱい」と言っただけです。そんな願いを知らなかったことにショックを受けました」



試行錯誤をつづけ、多くの人の支援を受けて16年に劇場をオープン。来場者の願いを聞く中で、聴覚障がい者には字幕、赤ちゃんを連れのお母さんには親子鑑賞室と、どんな人にも楽しんでもらえる「ユニバーサル(普遍的)」に。今は感染対策で人数制限もしていますが、映画を見たくて奈良から一人での視覚障がい者もいます。「視覚障がい者と聴覚障がい者のペアでの来場もありました。障がいを超えて同じ映画を見られるって多分ないんですよ。すてきなことだなあって」